

## 倉田幸路教授記念号に寄せて

倉田幸路先生は1971年に立教高校を卒業され、同年立教大学経済学部経済学科に入学されました。経済学部では茂木虎雄教授のゼミに所属し、会計学の道を歩まれることになりました。1991年4月に母校である本学経済学部で助教授として着任され、その後、1995年4月には教授に昇任し、2018年3月末に定年退職されるまでの27年間にわたり、本学および経済学部・経済学研究科の発展のために尽力してられました。

先生の研究分野は多岐にわたるものの、大別すれば、ドイツ会計、国際的な会計基準の調和化・統一化、利益論の3つに分けられます。大学院生時代および若手教員の頃には、伝統的なドイツ会計を研究されていました。その後、ドイツの会計学者の計算構造論の研究からドイツの会計制度の研究へと重点を変えながら、現在までドイツ会計の研究を続けて来られました。ドイツ会計研究の第一人者として学会で高い評価を受けておられます。そして、本学に着任される頃、ドイツ会計の国際的調和化、さらにはドイツにかぎらず国際的な会計基準の調和化・統一化へと対象を広げていきました。その国際的な会計基準の調和化・統一化のなかでも重要論点の1つであった包括利益などの利益論の研究に取り組み、この一連の研究は2004年に公表された「会計理論の変遷と利益概念」に結実し、当該論文で日本会計研究学会賞を受賞されました。

先生は経済学部において、主に「財務会計論」、「中級簿記」、「ゼミナール」を、経済学研究科では「財務会計特論」を担当され、学部生および院生の教育に熱心に取り組んでられました。「財務会計論」では、特定の教科書を最初から順に講じていくスタイルではなく、教科書を必要に応じて参照しながらも完全にオリジナルな構成および内容で講じていくというスタイルで講義を進められ、会計専門職を目指す学生のみならず多くの受講生を毎年集めていました。また「中級簿記」では、積み上げ式の科目であることを重視して、頻繁に授業内での小テストを行ない、学生の理解を促進させることに努めてられました。「ゼミナール」では、毎年、会計関連ゼミのなかでも1、2を争う応募者を誇り、その人気ぶりが伺えました。さらに「財務会計特論」では、院生よりも先生が話す時間のほうが長く、喜々として会計について語る先生の姿に刺激を受けた院生は少なくありません。

学内の役職として、2001年から2003年にかけて経営学科長を、2002年から2003年にかけて経営学専攻博士前期課程主任を、さらに2005年から2006年にかけて経済研究所副所長を務められ、

学部・研究科の運営に尽力されてられました。また学生団体である将棋部の部長も長年にわたって務めてられました。

さらに学外の学会活動については、日本会計研究学会、日本簿記学会、国際会計研究学会、税務会計研究学会において評議員、理事、学会賞審査委員、監事を歴任されてきました。また日本会計研究学会、日本簿記学会、日本会計史学会の全国大会を本学で開催し、そのとりまとめ役として大会を成功へと導かれました。さらには、税理士試験、公認会計士試験、税務大学校通信教育「会計学」の試験委員を務めてられました。これらはいずれも、学会における立教大学の評価の向上に著しい貢献をされたといえます。

倉田先生と私が酒席を共にする機会は少なかったのですが、懇親会や教授会旅行で一緒させていただいたときは、先生はプロ野球や研究者の「生態」などについて、豊富な知識と鋭い観察に基づいて、独特の早い口調で喜々とされながらお話しされました。先生の興味関心の幅の広さと深い知見に基づいたお話に、楽しい時間を過ごしたことを思い出します。

倉田先生の長年にわたる本学へのご貢献に感謝し、ここに先生の記念号を刊行させていただきます。

2018年12月

経済学部長 菅沼 隆